

医学教育分野別評価
広島大学医学部医学科
年次報告書
2018年度

評価受審年度2017（平成29）年

令和元年8月



広島大学

**医学教育分野別評価 広島大学医学部医学科 年次報告書
2018年度**

評価受審年度 2018（平成 30）年

改善した項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
なし	
改善状況	
<p>3 年生に新カリキュラム（45 分授業，演習の導入，講義コマの削減）を導入した。45 分×2 で 1 コマとし，前半を講義，後半は演習を中心としたアクティブラーニングを基本とした。</p> <p>2～4 年次が使用する講義室ではクリッカーも利用できるようになっている。</p>	
今後の計画	
<p>演習内容の確認やアクティブラーニングによる意欲や学習成果についても評価していく。教員側にもアンケートなど施行し，必要に応じてファカルティ・ディベロップメントの課題とする。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
資料 1 令和元年度カリキュラム委員会 資料 3	

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>「行動科学」科目は 1 学年で設定される複数科目の中で取り入れられているが部分的であるため，6 年間を通じて系統的に実施すべきである。</p>	
改善状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・「生命医療倫理学」の履修学年を 1 年次から 1 年次と 4 年次に分割して行うこととなった。 ・6 年次での臨床実践学において医療安全，コンフリクトマネジメントとして医療メディエーション実習を導入した。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・医療メディエーション実習を実施した 6 年次からは，臨床実習前に学ぶべき(学 	

びたかった)内容という意見がでた。今後は4年次の臨床実習前の臨床入門の中で行うことを検討する。
改善状況を示す根拠資料
資料2 第10回 カリキュラムワーキング部会議事録 資料3 令和元年カリキュラム委員会 資料4

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<p>重要な診療科を定義し、十分な期間をとって診療参加型実習を実施すべきである。</p> <p>Common diseases を経験する機会を増やし、プライマリ・ケア教育を充実すべきである。</p>	
改善状況	
<p>臨床実習Ⅰでは消化器・代謝内科，分子内科で各4週間の診療参加型実習としている。また，臨床実習Ⅱでは最低2回，4週間の診療参加型実習を選択することを必修とした。</p>	
今後の計画	
<p>実習期間のみならず，実習内容についても検討を進める。Common diseases の経験機会を増やし，カルテ記載やプレゼンテーションなどチームの一員としての診療参加型実習ができるよう改善策を検討する。外部の臨床実習実施機関での実習内容についても同様に確認し検討をすすめる。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
<p>資料4 臨床実習の指針2018年版 P6～P8 資料5 臨床実習Ⅰマニュアル P6～P9</p>	

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
基本的水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<p>基礎医学，行動科学および社会学と臨床医学の垂直的（連続的）統合をさらに充実させることが望まれる。</p>	
改善状況	

<p>これまでも1～3年次望まれる3年間にわたり履修する垂直的カリキュラムとして基礎医学・臨床医学を網羅する垂直的統合科目「脳神経医学」のうち「脳神経医学Ⅰ」を実施していたが、加えて2年次で「脳神経医学Ⅱ」を新設した。</p>
<p>今後の計画</p> <p>「脳神経医学Ⅲ」の新設予定がある。</p>
<p>改善状況を示す根拠資料</p> <p>資料6 平成30年度カリキュラム委員会議事録 資料3 令和元年度カリキュラム委員会 資料4</p>

6 教育資源	6.1 施設・設備
<p>基本的水準 判定：適合</p>	
<p>改善のための助言</p> <p>学生数増加に見合うように講義室のペースを拡充すべきである。</p>	
<p>改善状況</p> <p>形態系実習室の改修を行い、空間スペースを拡張した。</p>	
<p>今後の計画</p> <p>階段教室が多い中、形態系実習室は平面教室であり、TBLにおけるグループワークがしやすく、活用が期待される。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料</p> <p>なし</p>	

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
<p>基本的水準 判定：部分的適合</p>	
<p>改善のための示唆</p> <p>臨床トレーニング用施設の評価を確実に行うことが望まれる。</p>	
<p>改善状況</p> <p>スキルラボおよび先端医療技術トレーニングセンターを2019年1月に移転、拡張、改装した。(図1～4) 講義スペースに加え、救急実習用、手洗い実習用スペースが新設された。</p>	



図 1



図 2



図 3



図 4

今後の計画

スキルラボ，先端医療技術トレーニングセンターの活用状況（診療科や活用頻度，利用学年など）について調査する。

改善状況を示す根拠資料

資料 7 令和元年カリキュラム委員会 資料 6

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
なし	
現在の状況	
<p>合否判定に関する異議申し立て申合せはある。その中で，試験問題に対する疑義申し立てについては，「学問的な内容に対する疑義は，原則，各講義ユニットに対して行うものとする」とある。申し立てがあった際のフローが不明瞭であり，各ユニットでの対応が画一でない恐れがある。</p>	

今後の計画
試験問題の疑義申し立てに関する必要事項を定める。また、医学教育センターおよび学生支援グループで連携し対応のフローを明確にすることを検討している。
現在の状況を示す根拠資料
資料 8 広島大学医学部医学科専門科目及び講義ユニットの成績評価に対する異議申し立てに関する申合せ

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆・助言	
<ul style="list-style-type: none"> 臨床実習の評価基準を各診療科で統一し、知識、技能および態度を確実に評価するべきである。 臨床実習においてポートフォリオ評価を実質化すべきである。 臨床実習において mini-CEX, 360 度評価などを導入することが望まれる。 	
現在の状況	
ポートフォリオは利用されているものの、全体として運用されているとはいえない。	
今後の計画	
<p>広島大学全学で運用されている e ポートフォリオについて、臨床実習のみならず、低学年における実習等での導入の検討を行う。</p> <p>臨床実習の評価項目、評価基準、評価方法についての検討を行う。</p>	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
なし	
現在の状況	
入学時に受け持ちが決まっているチューターが、学生支援グループと連携して対応している。	

今後の計画
医学教育センターには臨床心理士の有資格教員がおり、今後はセンターの相談支援業務の拡大を考えている。チューターが学生から相談を受け、メンタルの問題の程度により医学教育センターと連携する。センターは学生と面談を行い、カウンセリングや支援をおこなう。必要に応じて健康管理センターと連携を取りながら対応する。また、必要な学生には継続的な支援を行う。
改善状況を示す根拠資料
なし

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程，教育技法，臨床参加型臨床実習の質を包括的に評価することが望まれる。 ・プロフェッショナリズムなど，長期間で獲得される学修成果を測定することが望まれる。 	
現在の状況	
態度面の評価は臨床実習における観察評価が主となっている。	
今後の計画	
態度面の評価の標準化と360度評価の導入の検討を行う。また，アンプロフェッショナルな学生についても評価，情報共有，指導についても具体的に検討していく予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績・成績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
使命と期待される学修成果およびカリキュラムについて，学生及び卒業生の実績を評価するシステムを整備すべきである。	
現在の状況	

卒業生アンケートにより自己評価をしている。
今後の計画
共用試験 OSCE, CBT, PostCC-OSCE, 卒業試験, 卒業時アンケートなど蓄積されているデータの解析を進める。データ収集についても継続していく。
現在の状況を示す根拠資料
なし

8. 統括および管理運営	8.1 統括
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための助言	
各委員会の機能分担と相互の関係性を明確にすべきである。	
現在の状況	
各委員会の業務機能分担は大体なされているが、相互関係性は明確になっていない。	
今後の計画	
各委員会の業務および相互関係性を明確にし、共有する。必要に応じて、兼任する委員を任命し円滑な連携を目指していく。	
現在の状況を示す根拠資料	
なし	